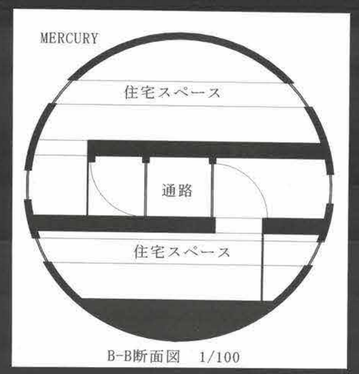
Cosmo

～月の中の小宇宙～



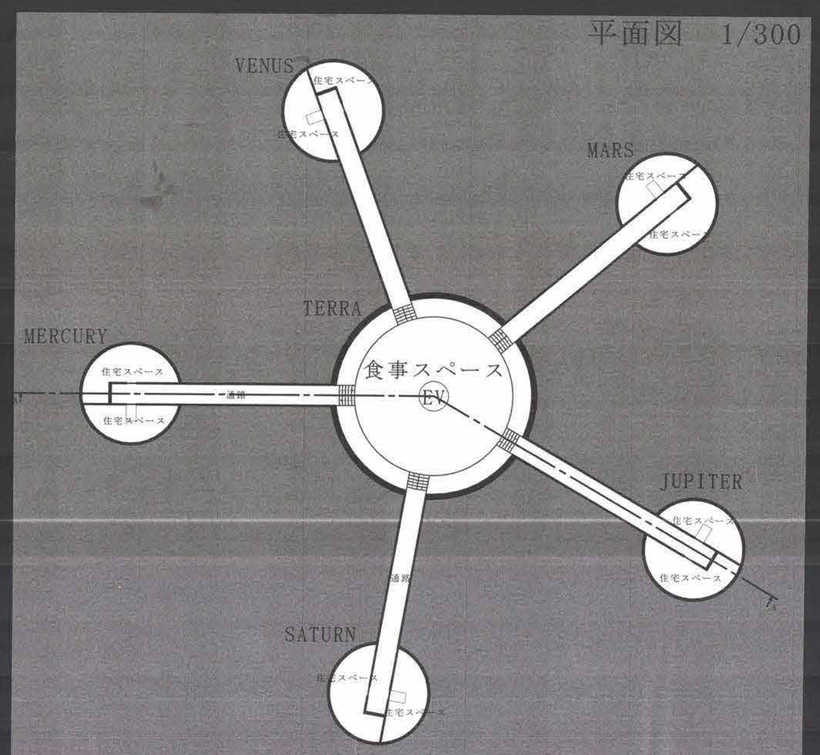
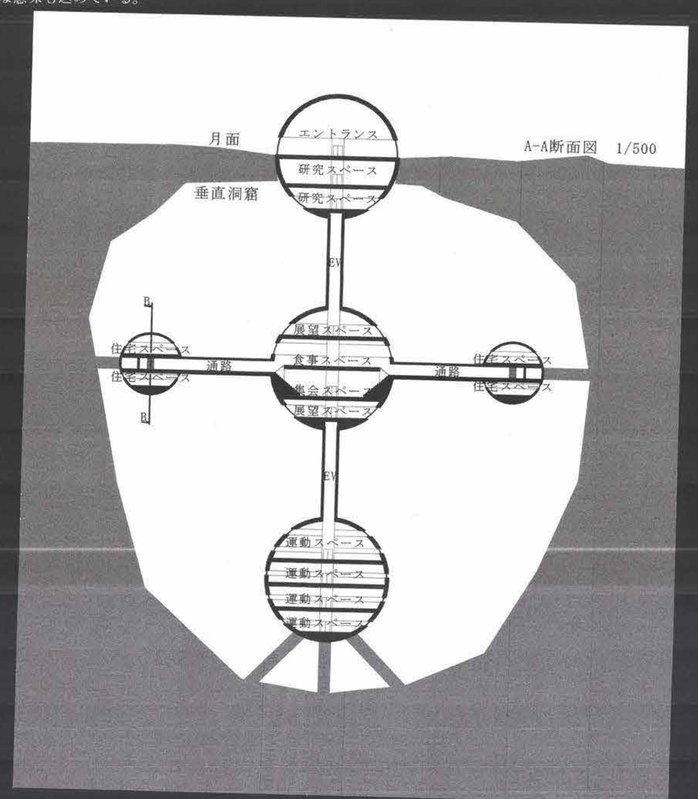
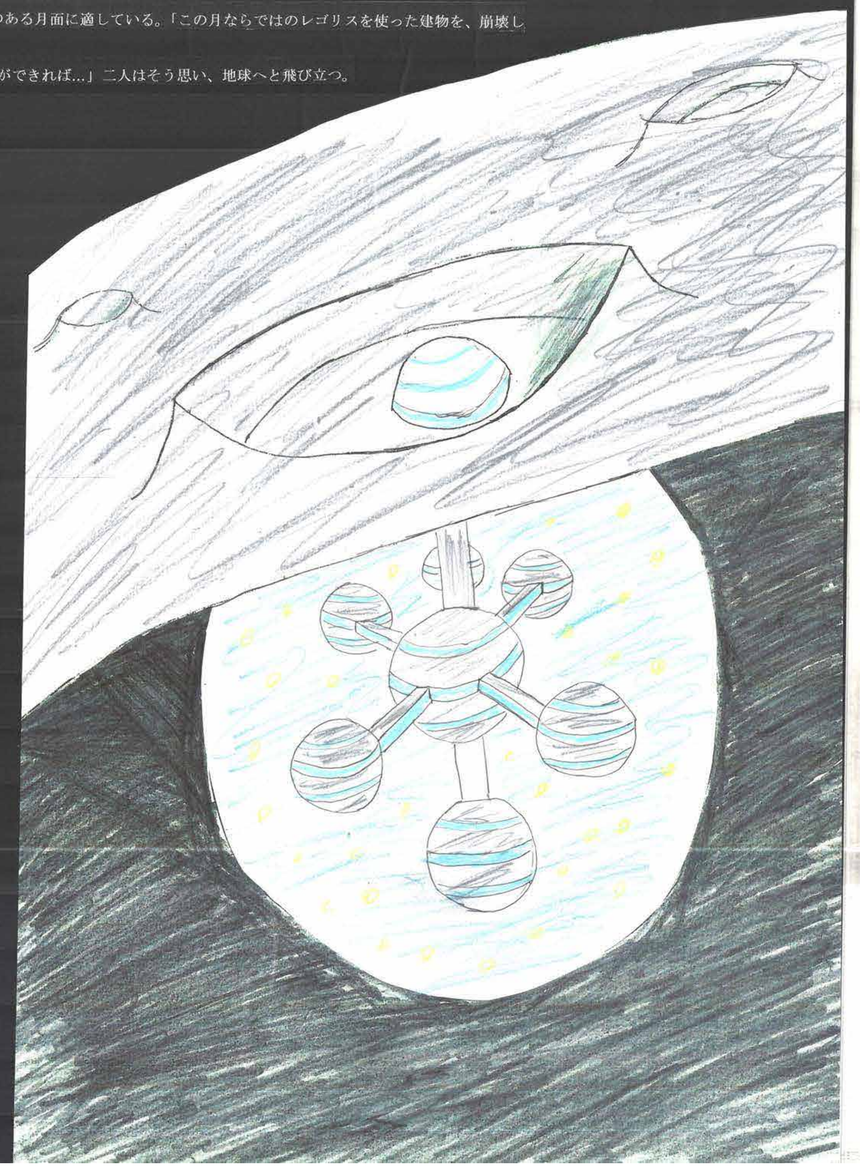
B-B断面図　1/100

CONCEPT

[redacted]の製作にあたって月の洞窟に何を作りたいかと聞かれたら、私たちはこう答えるでしょう。そう、小宇宙だと。その小宇宙には周りに星が散りばめられており、水星、金星、火星、木星、土星それぞれに２世帯が住む住居をイメージし合計１０世帯が住めるようにした。そして、革新・革命の星と呼ばれる天王星を月の研究所に見立て、海王星をトレーニングジムに見立てている。地球に見立てた、住人が自由に利用できるパブリックスペースは、全ての惑星と繋がり行き来できるようにしている。これらを月の洞窟内に建設した。また第一世代として月に初めて住むということで地中に根をはり育っていく、未来へ向かうイメージを持たせ、「ここから頑張っていこう！」そんな意味も込めている。

□□△△年○○月××日。　　明日、地球に飛び立つ。

再建しようとあの頃から頑張ってきた。　　壊滅状態の地球をちょっくら建て直してこようと思う。

地球に小惑星が衝突してから月日が経ち、いよいよ地球再建の第一歩となる。

カケルとユウトは、建築家として月の月面開発事業に取り組んでいる。地球では当たり前だった木材やコンクリートといった材料は、月には存在しない。そこで月にある材料で建物を建てるなら。そう考えた時、思いついたのがレゴリスだった。レゴリスとは、月の表面を覆っている砂で酸素の供給源や建築材料としても期待されている資源の一つだ。また、太陽風によって運ばれた水素やヘリウムが吸着されていて、核融合燃料になることで発電量をまかなうことができると考えられている。そして、レゴリスが最も特筆すべき点は焼き固めてレンガやガラスブロックを作ることができ、太陽熱を蓄積するための材料や建設資材としても使える。このレゴリスを使用して建てた建物は、実際に地球上で建てられていたレンガ造のようなもので昼と夜で温度差のある月面に適している。「この月ならではのレゴリスを使った建物を、崩壊しかけている地球に建てる事ができれば…」二人はそう思い、地球へと飛び立つ。